平成23年度広島県公民館等職員研修会（西部会場第３分科会）

分科会テーマ	家庭教育支援と公民館
発表内容	子どもと関わるすべての人に親プロの効用～ファシリテーターとして見えてきたこと～
発表者	六信　静枝（安芸高田市生涯学習センター「まなび」）
コーディネーター	黒田　敏弘（廿日市市宮内市民センター） 金沢　民恵（広島県立生涯学習センター）
運営委員	柿林　浩次（安芸高田市向原公民館）
記録者	今澤　節美（広島市早稲田公民館）

１「親の力」をまなびあう学習プログラム（以下，親プロと表記）の説明

○リーフレットとワークシートを使って，「親プロ」の概要説明

「親プロ」の特徴

・身近なエピソードをもとにした内容
・子育て段階に応じた２４のプログラム
・楽しく話し，聞いて納得する参加型

} 寄って，話して，自ら気づく

２　事例発表

○資料（別紙含めて８ページ）に基づき発表。　（写真資料あり）

・安芸高田市の現況…現在，親プロファシリテーターが20人活動。

・親プロの特徴…子育てに関わる全ての世代に対応できる。

・親プロを実施しているうちに24ユニットをアレンジして，オリジナルのワークシートを作りだすことに成功し，さらに学習者のニーズに対応できるものを目指している。

・年齢別学習プログラムの活動について，写真を提示しながら実践報告。

・事業評価としては，概ね好評を得ている。

・ファシリテーターとして見えたことの一つは，学習テーマは生活の中にたくさん転がっていることである。何気ない日常の生活風景が取り方によって，題材になり人の心をひきつける。いろいろなエピソードを貯めていってほしい。

・親プロの認知度を高め，「参加型体験学習」のすばらしさにも多くの人にふれてもらいたい。

３　質疑応答・意見交流

○北広島町千代田中央公民館　河村由紀子様から…発表者の隣市町で，事例発表は大変参考になった。自分自身のファシリテーターを４～５回経験したことがある。その中での気づいたことは参加者にとって話し合いも有意義だが，ファシリテーターとしてのまとめを期待されることがある。そんな時のために，どのように備えたらよいか？

↓

★体験談（人から聞いた話でもよい）を基にして，エピソードを交えながら話すのがよい。そのためには，人の話や自分の体験を豊富にしておくように。

○東広島市三ツ城コミュニティハウス　古玉菊江様から…保育所，小・中・高等学校などでの親プロ受講希望者が徐々に増えてきている。親プロを通して，他者からうなずいてもらえることが何よりもうれしいという感想も寄せられている。いろいろなところで親プロを宣伝していきたい。

↓

★ＰＴＡの役員にもファシリテーターとして活動してもらえればうれしい。
役員を味方につけることを思案している。

（休憩）

４　協議　　グループワーク

（１）　アイスブレイク…各グループ内で自己紹介・実務年数・仕事上のやりがいや願望等を出し合う。

（２）　グループワーク…テーマ「家庭教育支援に関する事業等について」

○本年度の各館の取組みについての情報交換および発表

【グループＡ】子育て支援センターと公民館の取組について，同様の取組があり住み分けが難しい。

【グループＢ】オープンスペース，子育てサークル支援（講座最終日には新聞作りを促し，今後の活動につなげる。）

【グループＣ】オープンスペース，乳幼児学級，家庭教育学級

【グループＤ】オープンスペース，料理教室など

【グループＥ】妊産婦対象事業（ヨガなど），託児付き事業（パン作り，アロマ），親子対象事業，三世代交流事業（老人会の皆さんと一緒にクリスマス行事）

○取組みの現状と課題を出し合い，その取組みが進んでいくための方法等を意見交換する。
家庭教育を推進していくときのキーワードを提案し，発表する。

【グループＡ】子育て事業を実施後，他の講座にも参加してくれるようになった。
子育て支援センターの事業と公民館の事業の住み分けが課題。インターネットなどを活用して，魅力ある公民館でしかできない事業を発信する。

【グループＢ】事業ＰＲのために，インターネットを活用する。子育て支援者のマンネリ化を防ぐため，民生委員や老人クラブなどさまざまな地域の人や団体とつながりをもつことが大切。

【グループＣ】子ども取り巻く家庭環境の変化（核家族化，情報化，興味の分散）を認識し，家庭教育を推進していくことが大事。⇒情報交換や周囲のサポートが必要。

【グループＤ】子育ての悩みを解消できるような意見交換ができる場の提供ができた。
事業に参加した人が，グループを結成したのは大きな成果である。
一方で，参加してもらいたい人に参加してもらえない現実もある。テーマの絞り込みや，対象者の洗い直し，連携方法についての考慮する必要がある。
参加者に次はファシリテーターとして活躍してもらえる場を提供する。

【グループＥ】親子のコミュニケーションに課題がある。親プロを知ってもらい，活用してもらえるよう努める。
親子ともに楽しい夢のある事業を展開することが，今後ますます求められるのではないか。

５　事務連絡・アンケートの記入・閉会

コーディネーターの所感	○学習機会の提供と間接的学習支援に関しての講演から，その事例発表の内容を踏まえて，更なる家庭教育支援のための講座の実施と支援者の養成という今後の課題にもつながり，共通認識を持ってグループワークを行うことができた。 ○事前に３者で打合せを行うことは，連携が図りやすくなり，円滑な分科会運営となった。 ○質疑応答では進行がやや止まってしまったが，事前の打合せを密にしていたことから，全体的な進行や時間配分は予定どおりであった。 ○短時間のわりにはどのグループも積極的な議論が行なわれ，よくまとめられていたように思えた。「現状の取組」と「取組の推進のキーワード」という２つのテーマに分けて進めていったのが，比較的議論しやすかったのではないかと思う。